

令和7年度新潟県バスケットボール選手権大会
兼 第101回天皇杯・第92回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会 新潟県代表決定戦
女子決勝

新潟医療福祉大学

63 $\left(\begin{array}{cc} 24 & - & 9 \\ 13 & - & 17 \\ 10 & - & 10 \\ 16 & - & 14 \end{array} \right)$ 50

新潟青陵大学

テーブルスコア

A	新潟医療福祉大学		得点	野投(本)		自由投	反則
S	No	選手名		3点	2点	(本)	
	1	廣野 智依菜	4	0	2	0	2
*	2	立原 理菜	22	6	2	0	0
	5	西山 歩					
*	7	相馬 嘉乃	9	1	3	0	1
	8	杉山 李緒	0	0	0	0	0
	9	佐藤 萌衣	0	0	0	0	0
	10	佐藤 愛	0	0	0	0	0
*	12	山田 杏美	12	1	4	1	1
	13	大野 萌絵	0	0	0	0	0
*	15	大井 暖々	6	0	3	0	4
	16	佐々木 稚那					
	18	中野 璃愛	0	0	0	0	0
	19	山西 凜愛	6	1	1	1	2
	20	小暮 美裕					
	21	相馬 珠里	2	0	1	0	1
*	22	郷六 柚葉	2	0	0	2	0
合 計			63	9	16	4	11

B	新潟青陵大学		得点	野投(本)		自由投	反則
S	No	選手名		3点	2点	(本)	
	4	塚田 帆風	8	1	2	1	2
	5	浅野 稟乃					
	7	倉島 早希	11	2	2	1	4
	8	甲谷 知香	0	0	0	0	0
	9	川本 彩藍					
	10	本多 咲貴	6	1	1	1	1
	11	中村 帆希					
	13	仲川 楓生	2	0	1	0	0
	15	中村 妃奈	10	0	5	0	1
	16	川崎 小珠	9	1	2	2	2
	17	菊池 咲輝					
	19	横井 莉乃愛					
	20	小川 紗英					
	21	石田 芽唯	4	0	2	0	
	22	田中 愛実					
	23	中井 あげは					
合 計			50	5	15	5	10

戦 評

女子決勝は、連覇を狙う新潟医療福祉大(以下、医福大)対 新潟青陵大学(以下、青陵大)の因縁の対戦。
1Q、医福大はオールコートマンツーマン、青陵大はハーフコートマンツーマンのディフェンスでスタート。最初にゲームを動かしたのは医福大の#2立原。その後も速いパス回しから連続得点。青陵大も果敢にリバウンドを取って食らいつくが、厳しいディフェンスにミスが重なり、得点に繋がらない。1Qは医福大が15点の大量リードで、24-9となった。
2Q、激しいディフェンスの応酬が続くなか、青陵大#7倉島が力強くも華麗なステップでレイアップを決め、連続得点。さらに#4塚田の3PSで一気に追い上げ、医福大はたまたずタイムアウト。その後もペースを乱され苦しむ医福大を救ったのが#12山田。厳しいマークを受けながらの3PSを決め、ここから徐々に流れを掴んでいく。ゲームは医福大11点のリードの37-26で折り返す。
3Q、追い上げを図る青陵大は激しいディフェンスを前に苦戦。対する医福大も2分30秒間無得点に抑え込まれるが、味方からのアリウープに#12山田がタップシュートを決め、#2立原の3PSなどで一気に引き離す。しかし青陵大も鋭いドライブに落ち着いて合わせて#15大井が得点。その後もインターセプトからの速攻で食らいつく。医福大11点リード、47-36で最終クォーターへ進む。
4Q、立ち上がりから積極的に3PSを狙う青陵大。シュートは惜しくもリングに弾かれるが、#21石田がリバウンドで奮闘し、#15中村が力強いドライブから得点する。さらにオールコートマンツーマンで追い上げを図るも、医福大#1廣野が冷静にボールを運び、流れを奪わせない。最後は青陵大の激しいディフェンスの間を割り、医福大キャプテン#7佐藤がクラッチシュートを決めた。
女子決勝戦は最終スコア63-50で新潟医療福祉大学が優勝を飾った。

(記載責任者: 桐生 雅彦)